9
神さまの怨結び
かみさまのえんむすび
守 KAMI 月 ZUKI 史 SIKI 貴
RED

神さまの怨結び 9

❖かみさまのえんむすび

守月史貴

Champion RED Comics

ただ……見てるだけ、
そんなのはもう嫌だ!!
蛇
■怨結びの呪いを授ける神。自身の中に潜んでいたもう一つの神格、紅に神の座を追われるも、クビツリの協力により神に返り咲いた。しかしその後、己の身に起こった変化とクビツリに起きている変調に一抹の不安を感じている……。
クビツリ
■赤縄で首を吊って以来、呪いを望む少女を蛇の元へ導く役を負う。今も死んでいる状態で、とある事件で左腕を失った。乙梨叶と想いを交わしているのだが……。
■怨結びの呪いとは??
対象者と交わり、その者を消滅させる呪い。代償は交わりとされているが、真の代償は行使した者も世の縁から外れることで、その外れ方は人により様々。

怨結びに関わってしまった人間たち

櫻 美咲 さくら みさき
■呪いで同級生を消してしまって以来、恋愛感情を失っている。今は刑事として怨結びを追う。

乙梨 叶 おとなし きょう
■かつて蛇を殺そうとしたクビツリに恋する少女。怨が刻まれたクビツリの左腕を持っている。

名無 ナナ
■呪いを使った安登まつりの死産となった子の魂が母体に宿り、名無に。クビツリに懐いている。

神永このみ かみなが このみ
■メイの学校の憧れの先輩。純朴そうな女の子が好きな才色兼備のスーパーガール。だが……。

大比木智 ともびき さとる
■疎遠となっていたメイの親友。進級時、メイと同じクラスになり復縁したように見えたが……。

根津見鳴 ねずみ メイ
■女子校に通う純朴少女。声楽部に所属し、そこで憧れの神永先輩と特別な関係を持つようになる。

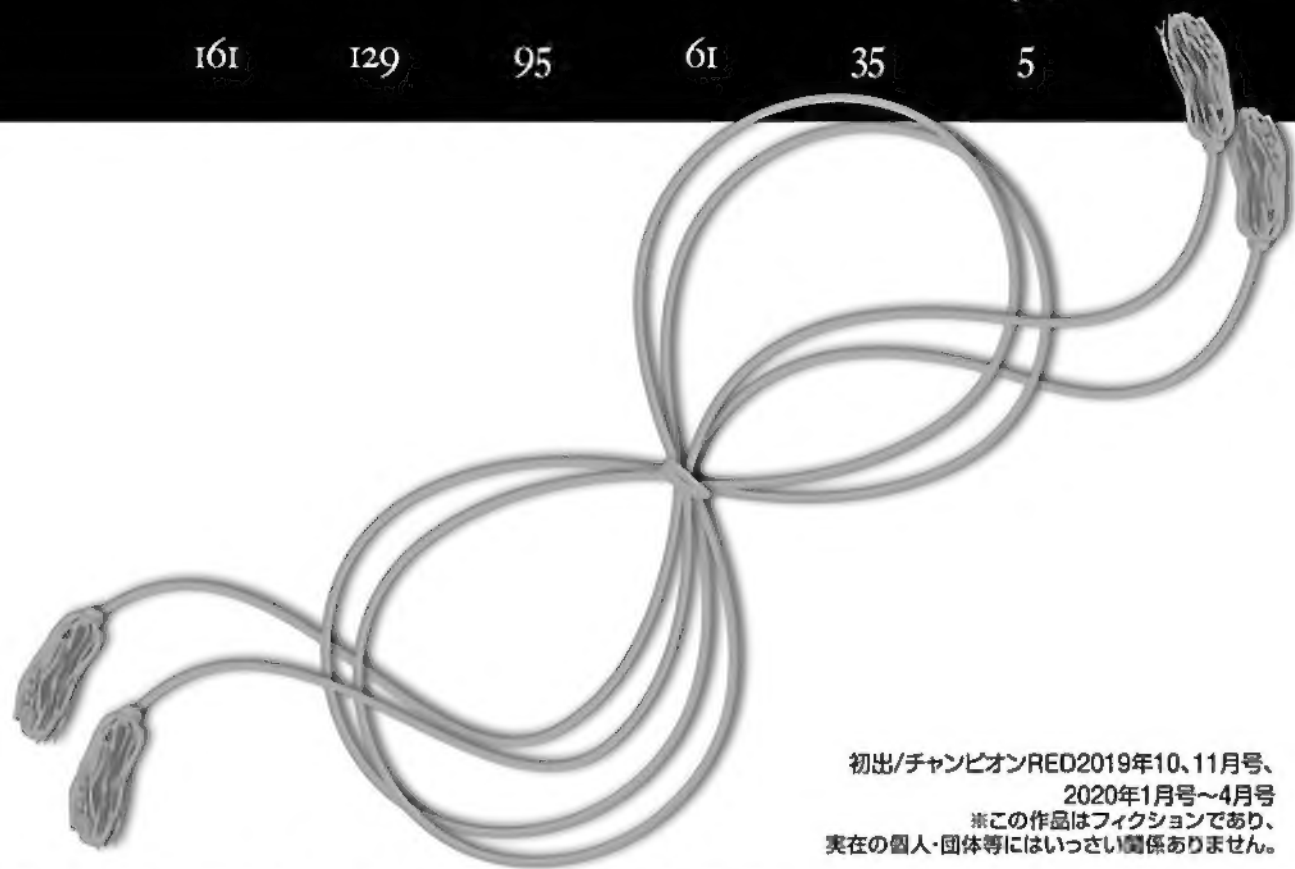
君は大きな勘違いをしているよ

神の座を巡る紅との対決は、蛇とクビツリの繋がりを深めることにもなったが、蛇は自身の変化とクビツリの変調に言い知れぬ不安を感じるのだった……。

女子校に通う純朴な少女、メイは憧れの神永先輩と秘密のお付き合いをしていた。やがて公認カップルとなるメイと神永。

しかし神永が隠す闇を知るメイの親友、智はメイを守るため神永をとある廃屋に呼び出す。詰問する智に対し、神永は衝撃の事実を語り始めた——。そして……!?

漏れ出し、広がる神永の闇。それはより深い怨を呼ぶ——!?

目次

初出/チャンピオンRED2019年10、11月号、
2020年1月号～4月号

第四十七節❖背徳の始まり、始まる呪い

……『ひどい？』どうして？
こんなに可愛いのに
結局のところ愛だの恋だのの行き着く先は
自分の種を残す行為が目的だろう？
どこにも非道い要素なんてないじゃないか
ああ……分かんないって顔してるね
だけど当時の私はまだ気付いてなかった
私のこの満たされない欲求はなんなのか…
ずっと答えを探してた
『あの事件』が起きるまで……

その頃 私は
一人の女の子と
付き合っていた

伏し目がちで
目立たない子
だったけど
前髪から時折覗く瞳が
とびきり可愛い子でね
知れば知るほど
その子の魅力に
溺れていった

手を繋いで

キスをして

……そして初めて
好きな子と結ばれた時――

……期待してた
ほどじゃ
なかったんだ

結ばれれば彼女の全てが
手に入ると思ってた
でも何か違う
肌を重ねて
気持ちを確かめ合う――
それはとても
素晴らしいことの
はずなのに

――そう
物足りなかった
同性だからとか
愛の深さの問題とか
そういうんじゃなく
何かが――

……そんな
違和感を覚えつつ
どこか満たされない
ながらも幸せだった
そんな時――

――衝撃だった

目の前に広がる
光景は地獄
そのもの――

なのに

私の愛した瞳は

とうに光を失って

されるがまま踊る肢体は

まるで操り人形のよう――…

なのに 壊れた彼女に私は こんなに×××――

そっちはいつまでやってんだ？とっとと交代……

……うっ

くっ

くっくく…

なんだ？こいつ…

くひっ

ふっ

ふふ…ふ

…ふふっあ…
あはっ
あっははは
……あんな快感
生まれて
初めてだった
ドン引く男たちの前で
幾度となく一人で
達してしまったよ……
その時の彼女？
……ああ…朦朧と
してたのかな
馬鹿笑いする私には
もう気付いてもない
みたいだった

ひとしきり達した私は一番デカくて偉そうな男に提案した

それから私は
人を好きになるたび

まじで
やべえーなお前
頭ブッ壊れてん
じゃねーの？

大事に……
大事に愛を
育んで
やがて結ばれる
時を迎えたら――
この場所へ恋人と
『結ばれ』に行った

画像も動画も
ただのコレクションに
すぎないよ
愛した子は大抵二度と
私の前には現れないから

……最ッ低…

こんな…こんなのッ
犯罪じゃん…!!
予想以上の
屑だったッ…!!
……ううん
そんな神永と
関係を持ったあたしが
バカだったんだ
そのうえ親友のメイを
巻き込んだきっかけも
たぶん——
め
メイ……
なーに?
智

……ごめん

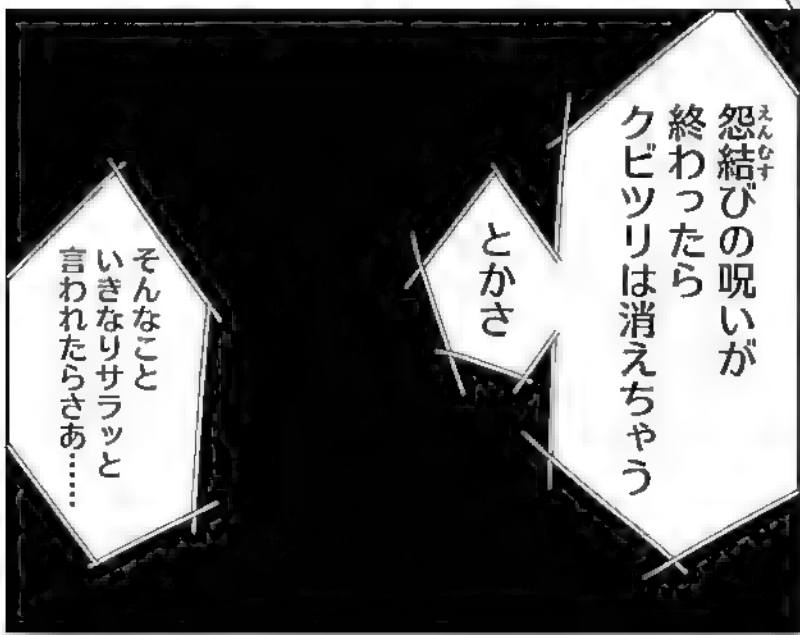
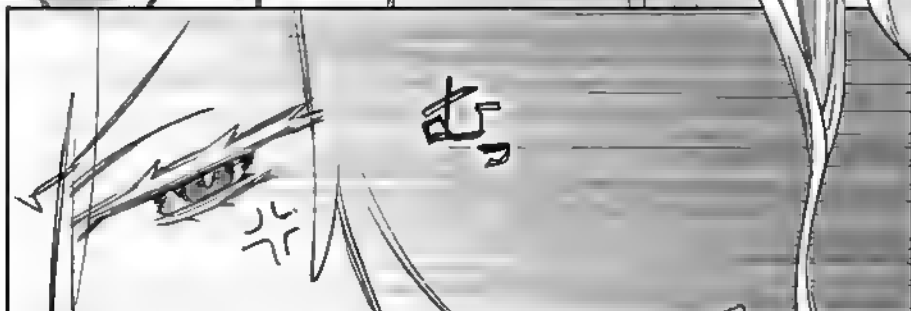
ごめんねメイ

ホントはあたし
先輩の秘密を見た時から
薄々気付いてた

……私なんかより
メイの方がよっぽど
あんたの好みだって
ことに…気付いてたから
だからあんたに
見つからないよう
メイを遠ざけた……
心のどこかで
もう手遅れかもって恐れながら
それで守ったつもりになってた
メイを
巻き込んだのは
あたしのせい…
だからもし…
もしも
もしメイを
あんな目に
遭わせたら
あたしが
あんたのこと
殺してやる
……!!
──『殺したい』？

殺しなんかより
もーっと
『いい方法が』
あるですよ――
え

ガチャ
ピチョン
ピチョン
むっ
クビツリ
なんか用？さっき別れたばっかじゃん
……え 僕の話を聞き損ねた？
あ〜……そんなのすっかり忘れてたよ
たしっ
悪い……元々そっちの話を聞きたくて呼んだのに
しょーがないよね
怨結びの呪いが終わったらクビツリは消えちゃう
とかさ
そんなこといきなりサラッと言われたらさあ……

つっ…
なんでか知らんが
名無の奴
その辺りからずっと
不機嫌なんだよな──……
あ あのな…名無
そのことでまだ
伝えてねえことが──
まあ
電話ぐらいが
ちょーどいい
かもね
僕の話は相当
馬鹿げた内容だし
ピコ
話半分に
聞いてくれれば
いーよ
──お腹に居た頃の
僕はまだ
今と違って
ママとはバラバラ
だったんだよ

ゴポポ……
でもある日 突然
苦しくなってさ
ママも
苦しんでるのが
伝わってきたよ
次第に意識が
遠くなって――
ああ 自分はこのまま
消えちゃうんだ って
思った瞬間
気が付いたら僕はママの中に居た
がっ…

『怨結び』

『千石』

『私が』

『私が助けなきゃ』

『このくらい千石の
耐えてきた痛みに
比べたら――』

『こわいこわい』

『こわい』

『……千石』

『私も――
一緒に
行こう……』

こんな『記憶』要らなかった……
これは僕の思い出じゃない
ガリッ…
望みもしないモノを無理矢理頭にブチ込まれ
ぐちゃぐちゃになった僕が
最初に抱いた『感情』は——
ママと僕をこんな風にした——
『怨結び』を許さない
……だったんだよ
そう……
だったのか……
て言ってもまあ分っかんないよね〜
僕自身 未だに僕っていったい何なんだろ？って考えるし
かつて俺を——殺そうとした名無

被害者の会を起こすだけの行動力

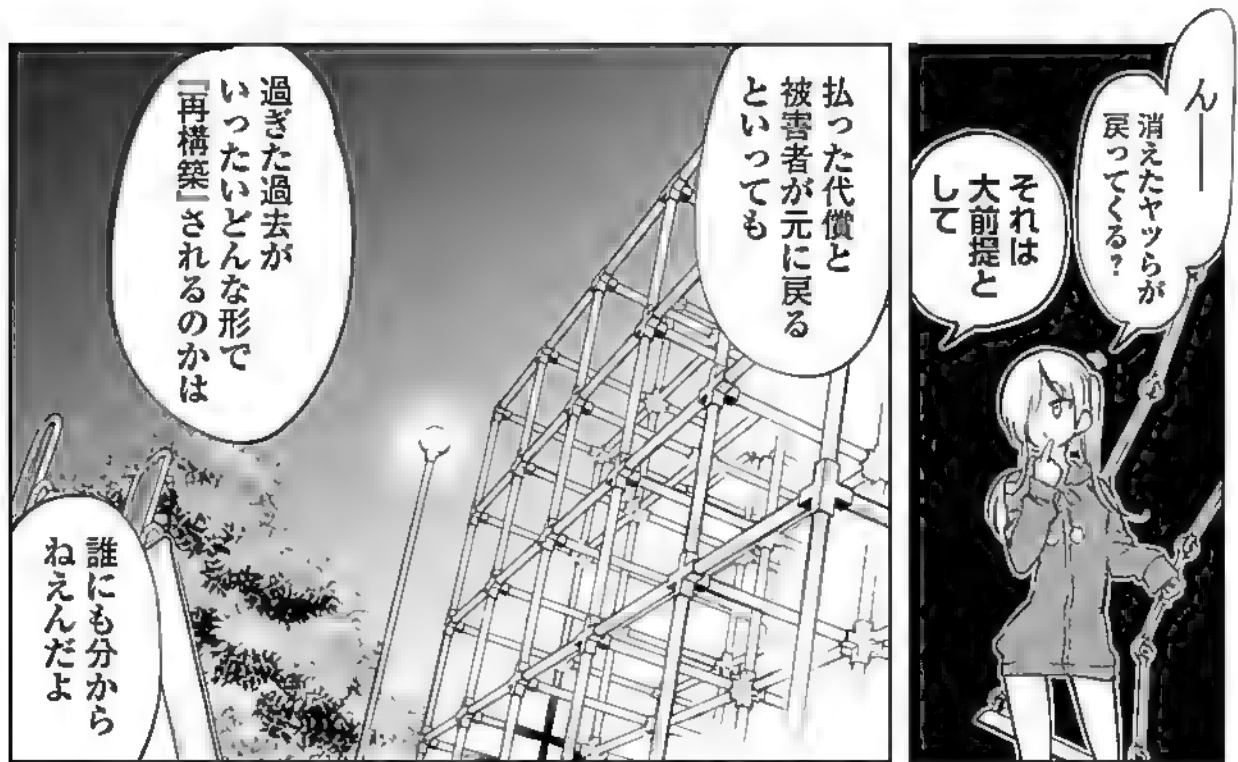
俺の弱みを押さえて動きを封じる頭の回転

その分いっぱい遊んでくれるよね

一方でそれと釣り合わない子供じみた無邪気な残酷さ……

お前はこうして自己を確立できたんだ
名無だよ
今のお前は他の誰でもねえ
ぼそっ
ほんと……
……お人好しなヤツ
ガラ
よじ
よじ
!!

そーいやさ
怨結びを終わらせるには
呪いをバンバン使わなきゃじゃん？
それでもクビツリは今も
不幸な怨結びは避けたいとか生っチョロいこと思ってるワケ？
コイツ コロッと上機嫌になったな
ってか保護者の許可無しに出歩いていいのかよ お前
暗いぞもう
保護者
ええ…
じゃあ逆に訊くけどよ
呪いが解けたら——
どこまで『元』に戻ると思う？

ん…ん〜そっかー
過去改変……となるとちょっとややこしいなあ
だろ?
だからこそ
やっぱりむやみに呪いをバラまくべきじゃねえ……と思う
キーコ
キーコ
時には呪いに頼らざるを得ねえような事情もあるかもしれねーが
それでも怨結びと関わらずに済むなら それに越したことはねえんだ…
…絶対に

――いっそ悪人だったら
恨み続けていられたのにな―
応援してるよ
クビツリのそういうとこ嫌いじゃないし
パン
パンッ
あ？なに？
別に
――おいおい
これは…ちょっと……
どうしてもやんなきゃ駄目…？

ダメ
一緒に滑るんだから！
いやでも俺だいぶはみ出てるし
両側の支えが低すぎて落ちたら危ない
ホラいい加減手すり放して
ぎゅ
ちゃんと抱っこしてよ
ズルッ
ぉ
あ
あああああ

……
……
大人のくせにすべり台くらいで体力無さ過ぎ
あの後も散々すべった↓
それとも高所恐怖症？
クビツリのくせにー
病院で逃げた時は飛び降りたって聞いたけど？
首吊りカンケーねえだろ
あん時は生きるか死ぬかの選択だったんだよ
蛇とは遊んだりしないの？
あっ遊ぶわけねえだろ…プライドの高いあいつが
ガキの遊びなど
ふーん
………
ねえ

僕が『居た』ってこと

ママと僕は
会えないけど
それでも僕を
宿してくれて
ありがとう って
……ママに
伝えてほしーんだ
名無
…お前――
…気付いて
たのか…？
自分が
消えること…
……そりゃね
だっていくら
自己を確立したって
いってもさ
本当の僕は
生まれること無く
死んじゃってるんだよ

ママが戻ってきたら
この身体は返して
あげないと
僕はいつまでも ここに
居ちゃダメなんだ って
最初から
分かってたよ――
はっ…

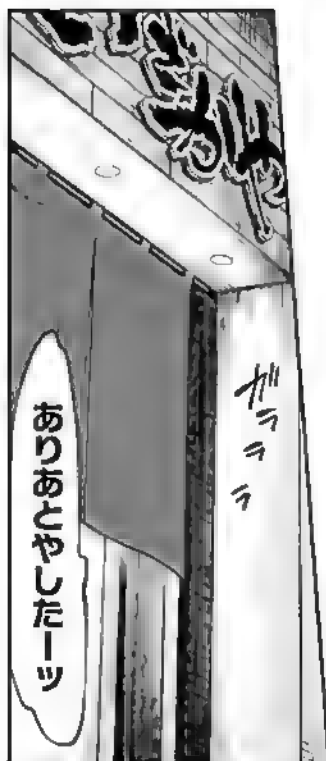
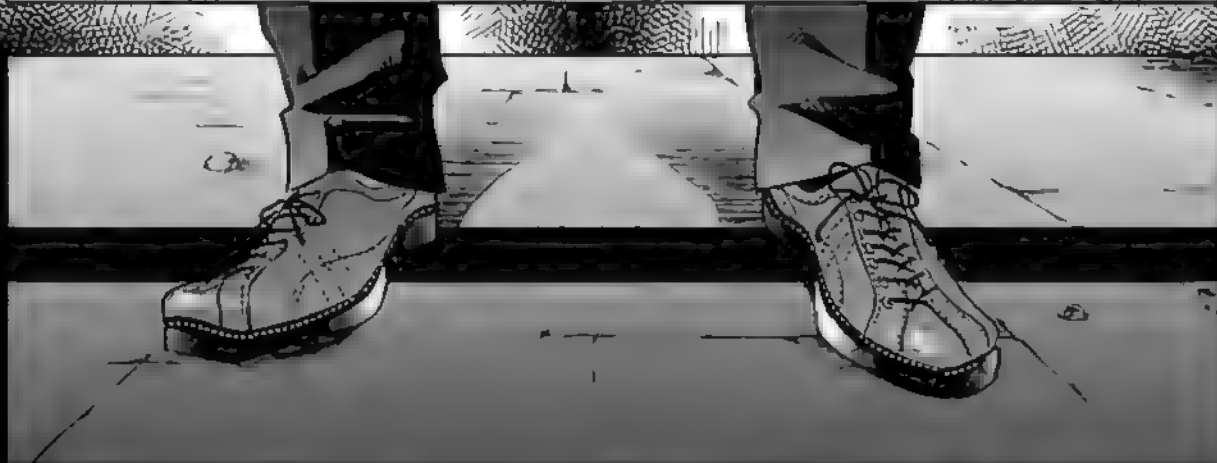
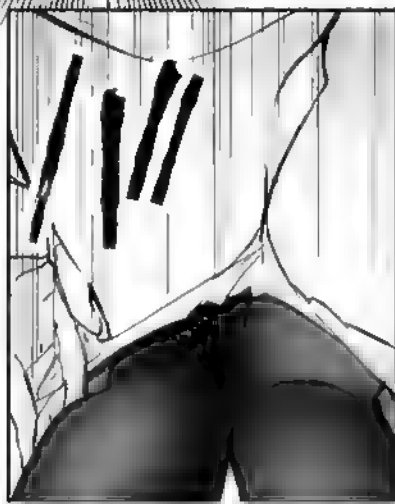
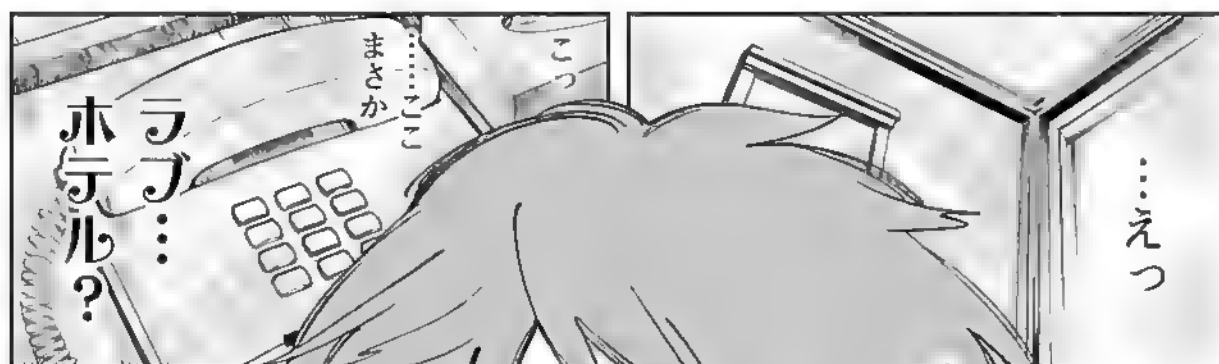
……は
あんた……
だれ？
てか ここっ…
どこ？？？
え？
だってあたし……
廃墟で神永と話を――
えっ
なにこれ…っ
放して！
なんなのよ
これ!?
問い質して
やればよいのです…

やろうとする輩には――

やり返される覚悟があるのかどうか

きゃああ!?

第四十八節 ❖ みだれざくら

櫻美咲(2X歳)
職業 警察官(警部補)
キャリアで異例のスピード出世を果たすも
本人の強い希望で少年事件8課へ異動して三年――
はあああああああ～……
今日も……なーーんの成果も……得られませんでしたぁ～……
すみませーんっ生もう一杯!!
あのーお客さま大丈夫ですか?少し飲み過ぎ……
これが飲まずにっ……
やってらんないですよー!!
知ってます～!?うちの課……

『行方不明者届の墓場』
ぴやーーっ
なーんて陰で言われてんですよぉ〜!?
厄介払いなんれすよぉ〜!!
たっただ今お持ちいたしますーー!!
ガラララ
ありあとやしたーッ
はあ…
とっぷり
東京って冷たい……
つん!?
フラ
フラ
ガサッ‥

いたたた……
はあ…
イタい…
ドサ
だるい……
疲れたく……
ん～…？
…そだ
ごろん
寝る前に
目覚まし……
かけ…なく
粗大ごみ
処理券
1000円
ちゃ……
うと…
うと…
……

…えっ
こっ……ここ
まさか
ラブ…ホテル？
待って待って…私
昨日居酒屋で飲んで…？
えっと……それで……
……なんでラブホ!?

エッチなこと
された形跡は……
ない
くんくん
所持品の盗難も
特に……
はー……
……。
サーッ……
……宿泊代？
二日酔い
やってしまった……
警官として
あるまじき失態……
先日蛇さんたちを
取り逃がしたばかりで
落ち込んでたとはいえ
記憶が飛ぶまで飲んだ挙句
誰とも分からない人に
介抱されるなんて……っ!!
そのうえホテル代まで…
……ぱい
先輩

好きにはならない

佐々…っつったか

なれないんじゃなくてならないの

例の事件以来――

謹慎処分の末復帰してきた彼は

以前とは様子が変わってしまっていた

絶対に

例の身元は
明した。

どこか一線引いてるような――

……全部私の責任だけど

たとえ軽蔑されても

それで彼が諦めてくれたのなら……それでいい

だって

もし……求められたら
きっと私はまだ
心もないのに『身体を許してしまう』から——
……
先輩
なんか今日
元気ないですね
昨日も遅かった
みたいだし
無理してません？
えっ？
ちっ違うの
これはただの
二日酔いで
——……
……あれ？
佐々くんから
仕事に関係ない話題を
振られるなんて久しぶり——……
……先輩

えっと……
これまで色々すいません
なんか……
散々悩んだけど
……もうふっきれたんで
今後とも
よろしく
お願いします
ペこ
はっ
……い 一応
「あのこと」は
他言無用で…
…お願い
ね？
も
勿論ですっ
――先日の
櫻くんの報告を
踏まえ
今後の
捜査方針
だが――

基本的に変更はない
―重要参考人の男
九来木辰巳
通称「クビツリ」に加え
呪いの元凶とされる「少女A」が確認されたものの
機会を逸して以降
杏として彼女の足取りは掴めていない
だが幸い「クビツリ」の追跡は可能だ
今後も引き続き男の監視と呪いの調査を―
……あの！
安登警部は―
ははは
そんな確証のない話をアテにしちゃダメだよ
今の段階では我々に関係のない話だ
『呪いを使い切れば被害者は元に戻る』話についてはどうお考えですか？
もっとも―

その話が
「本当」ならば
私としては
願ったり
叶ったりだがね

……

それはつまり――

私は手段を選ばない
呪いを静観することで娘を含む被害者が元に戻るというのなら
迷わずそうするだろう
……もしも佐々くんが警察官として許しがたいと思うのなら
外れてもらって構わないよ
ただし私の邪魔はしないでもらいたい
…いえ
僕は元々そんな熱血タイプじゃないです
・・・・・奴らの最期を見届けるまでは外れません
絶対に――

トトト

もー……

昼間はヒヤヒヤしたわよ

確かにあの安登警部の発言は公私混同ととれなくもないけど

何より娘さんを元に戻したいと願ってしまう気持ちは分かるでしょ

それをあんな言い方……

あはは すみません

蛇に二度遭遇しておきながらされるがまま
二度目に至っては人間になっている千載一遇の機会を取り逃がした
あ――……
ままま
今日はこれまでのお詫びも兼ねて僕の奢りですから
いっぱい食べて飲んで元気出してください!!
……励ましてくれるのは嬉しいけど
お酒で失敗したばかりだし適当にセーブしておくわ
あっそーいや今朝二日酔いって言ってましたね……
スイマセンなんか
それはもうゼンゼン平気なんだけど
酒強いっスしねー
――……
…って……
櫻先輩……

全ッ然……
セーブできてないじゃないですか！
これが飲まずにく……
やってられないっ
れしょく!!

こないだ調べて貰った
女子校も結局
ハズレだったしく
毎回捜査に駆けずり
回る私たちって……
なんなのく？？
もーイヤーく
先輩って…
あんま警官向いて
ないっすよねく
もっとテキトーに
やりましょーよ

んく……
実際私……
もし怨結びして
なかったらぁ……

ケーサツ官
にはぁく
ならなかったと
おもう……

え
私ねく……

ホントは『おかあさん』になりたかったの
うちはあんまり親と喋らなかったから
ふだんから子供と たくさんお喋りしてー……
心や体の悩みも相談にのってあげられる……
そーゆーおかあさんになりたいんだぁ〜……♡
……先輩——
でも

呪いが解けなきゃ
それも叶わない
のよおおお〜!!

……うぷっ

てか先輩……
こっから一人で
帰れるんすか?

え〜?
……

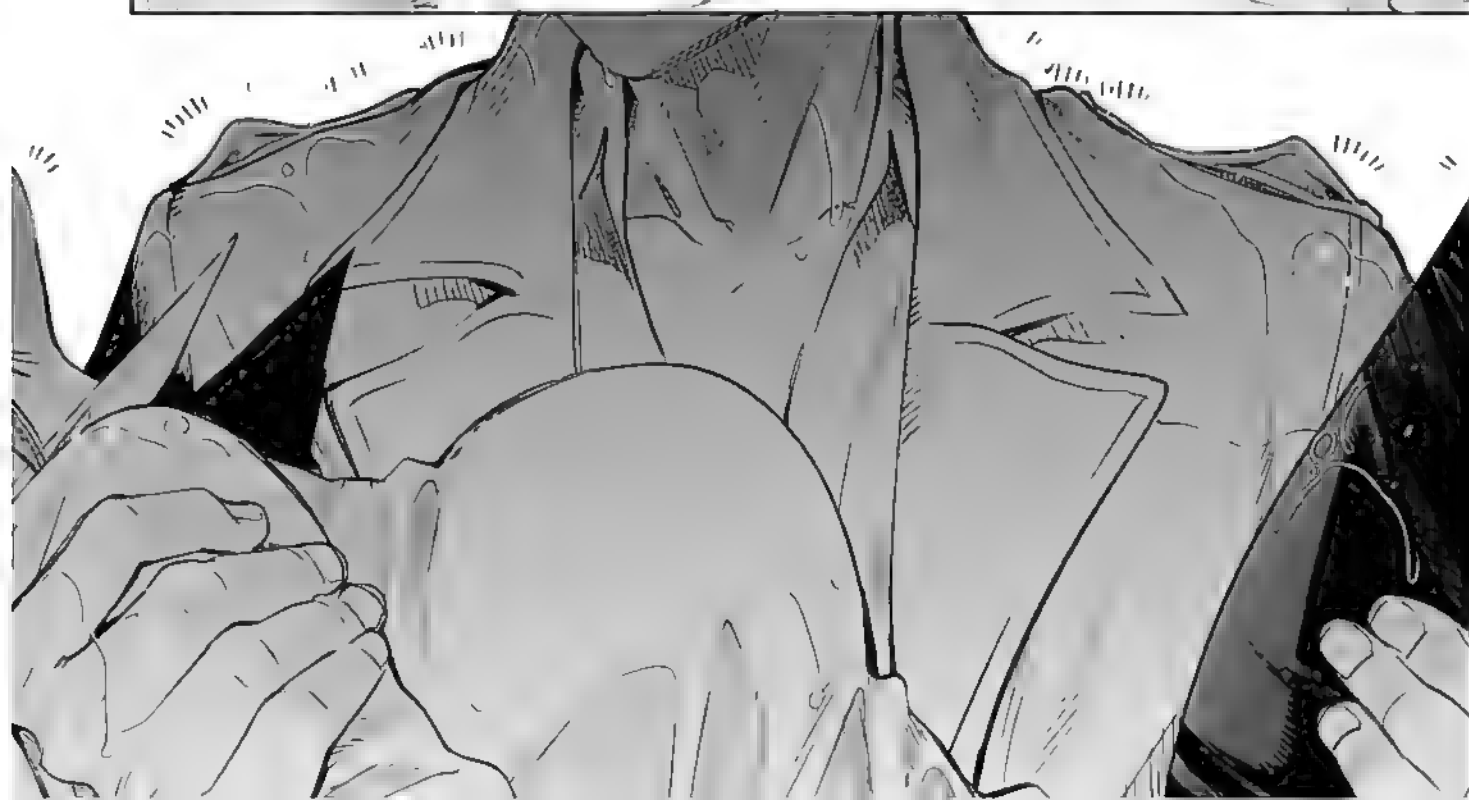
あーー!!
佐々くん 終電
なくなっちゃう
じゃん!!

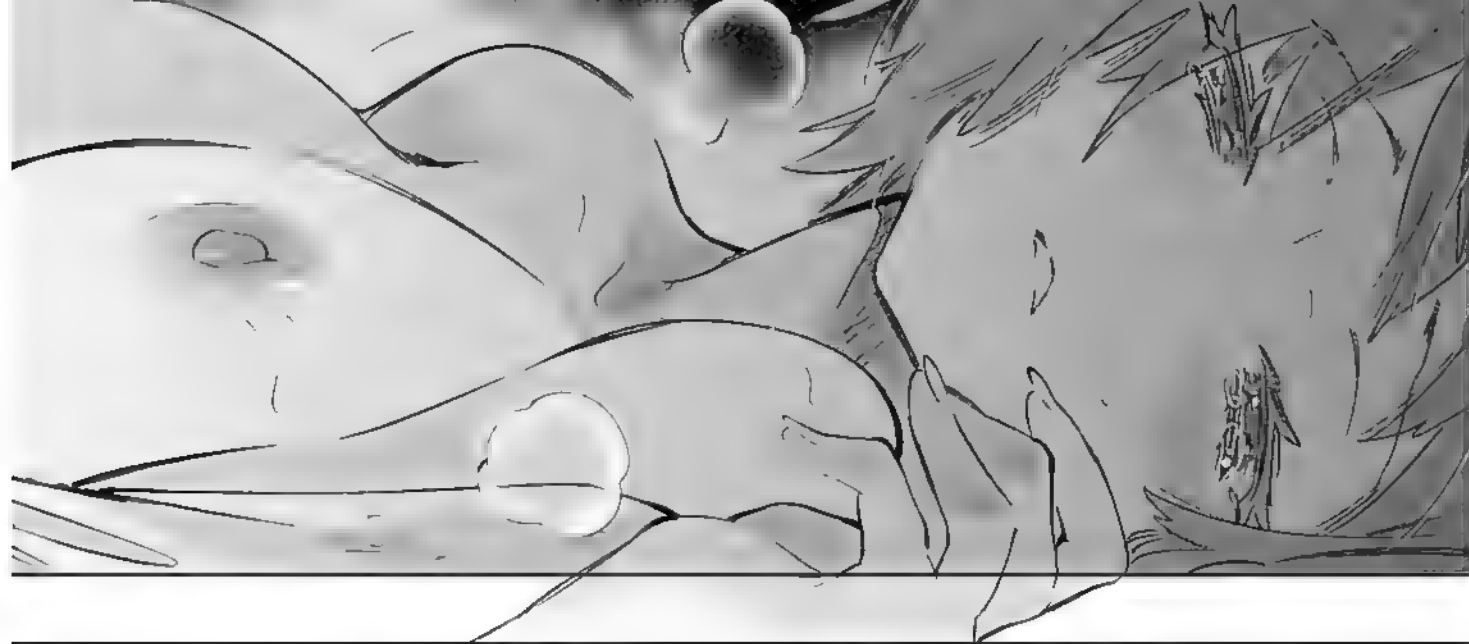
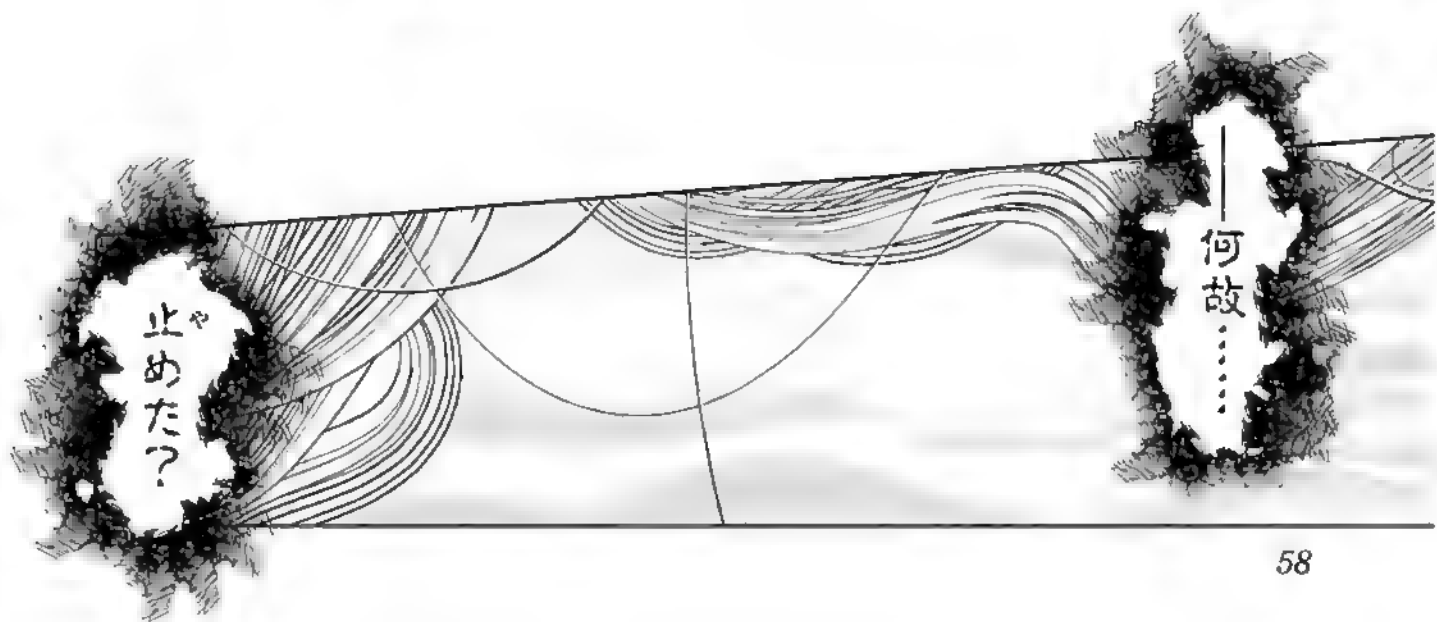
ちょ
先輩声
デカいっす……

ほら走って!!
おうちに帰る
時間ですよ〜!!

ポツ
ポツ
ポツ

ドサッ
ごし
ごし
……んっ……
ぴく
トロ・・

ずぶ
ずるんっ
んっ う!?
ぐいっ
はっ…は…
むに…
ん…
ん
は…
あっ
ちゅぷ…
ちゅぽっ…
……っ!
……
ちゅっ
あっ…
あ♡
…あっ!
やっ…め…

……
もう……
ゆるっ……して
いなば……あっ……
はあっ
は
じゃあ
誰……が——
あ
違う……
稲葉は私が消しちゃったんだ

チチ…
HOTEL
HOTEL
HOTEL
VIOLET
思い……
……出した

……嘘

そんなはず……

『彼』がそんなことするはず……ないのに

あの人……

クビツリさんにしか
見えなかった——

わざわざ出向いておきながら
あの状況で娘を犯さぬ理由がどこにあるのか
分からぬのぉ……分からぬ……分からぬ……
……うるさい
それよりも呪いだ
怨結び（えんむすび）は・・・・・終わらせない――
奴らの思い通りにはさせない
にゅふ…ふふふ
そのためには――……分かっておるのです？
ああ

言われなくても分かってる
せいぜい派手に暴れ回って――
お前の狙う
〝大蛇〟とやらを引きずり出してやるよ

第四十九節❖あたしの大切な友達

——メイをそんな目に遭わせたら

あんたのこと

殺してやる……！

殺しなんかよりもっーと

いい方法があるですよ——

……は

あんた……だれ？

てか ここっ……どこ？？？

問いただしてやればよいのです……

やろうとする
輩には――
やりかえされる
覚悟があるのかどうか――

第四十九節❖あたしの大切な友達

――呪いは
授けられた……
憎い相手と
交われば……
××…す…が出来……
……
あっ…
いま…の
夢っ……？
でも
……！
あ……
あれ……？
『殺してやる』――
ね……

物騒だな
そういうの…
可愛くないよ

!!
やれるものなら
どうぞ——
……とはいえ
出来る
かなぁ……
君・に・

触っ…
んないで
よ!!
恐れているのが
バレバレなんだよ

見た目ばかり
着飾って
中身はなんも
変わってない……

いッ…
だって
……ねえ?

私が怖くて怖くて仕方が無いから
未だに『私の好みでない格好』を頑張って続けてる――
……って
言ってるようなものだよ……
智・
あっ……
あ……
健気だねえ……うん
そういう健気なとこ…凄く可愛いよ
ああ……大事なことだから聞くけど

君って今も
処女？
ドグン…
何…びびってんの
あたし……
マタ逃ゲルノ？
あたし……
あたしがやらなきゃ
メイガヤラレルダケ
そう…だ
今度こそ私
メイを
守んなきゃ

——驚いた…
お
女の子に
襲われるのは
……初めてだ…
……そうだ
もうあの頃みたいに
恐れるだけの
私じゃない——

罪もない女の子たちを
そして――
もし……メイにも
同じことするつもりなら
その前に――
あたしが
アンタを陵辱
してやる!!
でも
残念……

!?

……えっ？

あんたたちがなんで…ここに

ってかその顔……!?

……

ごめん……智

でっでも俺ら

君のお客さんは私じゃなくて……
彼・ら・だよ
……あんた最初……から
その…つもりで……
ひっ……
きょう
もの……
卑怯者ッ!!
犯るならアンタが直接犯れよ!!
ひきょ……

……あーあ…

あたし…ダッサいなあ……
あんだけ大見得切ったのに
結局神永に嵌められてさ…

悔しい
悔しいよ……

……
悔しい…のに
……なんでよ……

――あたし……
なんで
神永を手にかけることが出来なくて
少し　ほっとしてる――
『やろうとする輩には』
『やりかえされる覚悟があるのかどうか……』
な～んだ……
結局
覚悟がなかったのは
あたしの方　だったんだ……

……ごめんね
メイ
あたし
また守れなかったよ……

ザラ…

ザラッ…

鮫嶋さんッ!?

おいっ何が起こってんだ!

知らねえよ 終わって一服してたらいきなり――

なあ…これ死んでね!?

おいおいやべーんじゃねえのコレ救急車……

アホこの状況で呼べるかよ

ずらかんぞ!!

なに これ……
なん……なんだ？
君の執念が……怨念が
男を殺したっていうのか……？
道連れ に……
そっ
そんな こと……
……あ
あっ
ウソ…
ああッ…
凄いよぉ!!
ねえ今の！
どうやったの？
もっかい出来ない!?
なんで
黙ってるの??
ねえったら!!!
それが──

『怨結び（えんむすび）』だ

ん〜〜………
朝…… 10時……?
……あれ さとる?
え!?
昨日の通知 すごっ
うぇ〜ごめん智〜 ぜんぜん気付かなかっ……
……
……
コラ鳴! 土曜だからって寝過ぎじゃな……
鳴!?
ウソ!!
ウソでしょ!? 智――……!!
メイ
直接話す勇気がないからって こんな形で――ごめん

電話……
繋がんない

好きな子を
『壊す』のが
好きなの

何人もの女の子が
『どこかの廃墟』で
酷い目に遭ってる動画を

彼女の私物から
見つけてしまった

去年の夏に流行った
『怨結び』って都市伝説
覚えてる？

ざわ
ざわ

メイに調べるの
手伝って貰ったやつ

人だかり……？

……
あの場所って
確か…

あれ……ウソなの

目的は廃墟を探すことで
怨結びは興味を引くための
嘘っぱち……

うわーなんか
ドキドキするー

メイは怨結びのこと
一人でも色々調べて
くれてたのに……ゴメン

あたしは
動画の真偽を……
確かめたかった

でも本当だった

すみませ…
通してっ

ぐい

ぐい

通して
くださいっ…

メイは気付いて
なかったけど……

あたし あの廃墟で
見ちゃったんだ

……!?

あの人が、廃墟で男とつるんでいる所
KEEP OUT
廃墟で人が死んだみたいよ
あそこ普段から不良みたいなのがたむろってたけど
女の子に乱暴してたんだって！
えっじゃあ亡くなったのってその女の子？
さあ……
きゃっ
なあに？あの子……
嘘!!
智は関係ないよね!?
だって昨日まで普通に──
メイが神永に目をつけられたのはたぶんあたしのせい……

ちょ…
僕!?
どーしたの？
待ってー！
あの夜
あたしがメイを
置いて逃げたとき
神永は声を上げた
メイに気付いた
はずだから
メイはこれまで
神永が手を出してきた
純朴そうな子たちに似て──
……ううん
下手したら
その中の誰よりも
あの人の好み
ど真ん中
だったから……
おばさん！ 智！
いますか!?
メイ……
ちゃん？
あら──……
来てくれたの？
でも智は……
……智はね……
実はさっき病院から
帰ってきたばかりでね
今眠ってると
思うから
ちょっと…
メイ
ちゃんっ!?

そうして
あたしは助かった

自分だけ
姿を変えて……

こんなの……
メイを囮にして
逃げたも同然だよ

……これから
例の廃墟で神永と
直接話してくる
メイから手を
引くよう
頼んでみる

これはあたしの勝手な罪滅ぼし――……
……
さとる…
ねえ
居るんでしょ？
智っ……

メイに散々隠し事しておいて今更 虫の良い話だけど
ギイィ…
信じて――
さと……る？

……え
と…

……智！

智!?

返事して!!

いったい何があったの!?

あたし！メイだよ！

聞こえないの!?

――……どうして

見てもくれないの……？

メイちゃん

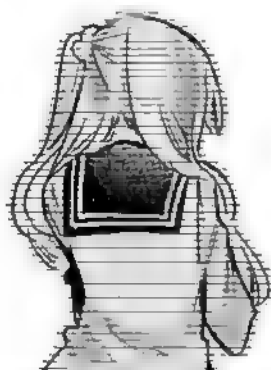
お願いだからそっとしてあげて……

今……智はね ひどく疲れちゃってるの……

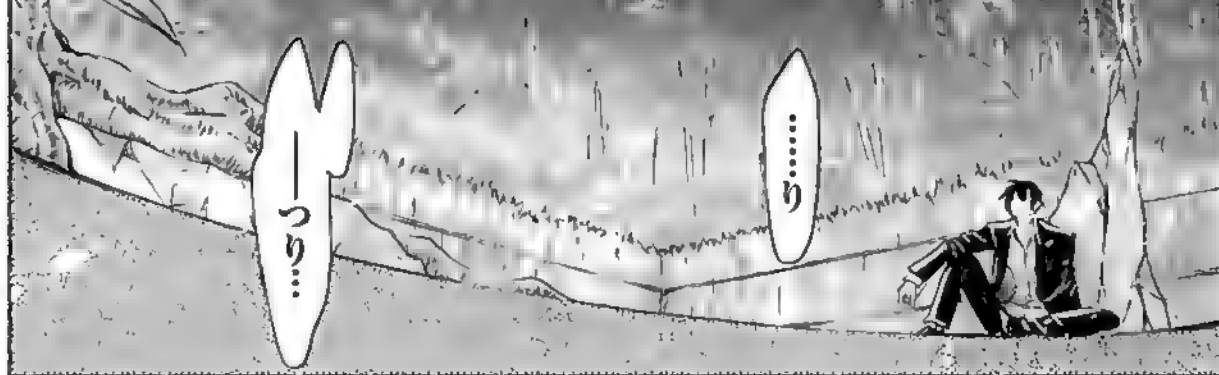
だからね…

『――どうか』

『目を覚まして』

『もし　あたしに何かあったら——』

『神永を疑って』

『あいつから——逃げて』

私が……智の話を
聞こうとしなかった
から……
あの人はホントにヤバイんだって！
このままじゃあんたが──……
だから智は先輩と会って
──それで──…
せんぱいがさとるを……？

クビツリ!!
聞いておるのか!?
うおッ

それ程 乙梨叶が
気になるのなら好きなだけ
茶茶繰り合えば良かろ
会ってはならぬ
理由なども
あるまいに
きっ
叶のことはお前に関係ねえだろ!?
──いや
…悪い
ゆるして
…その 本当に
叶のことじゃなくて
ゴゴゴゴ
ただ時々意識が
飛ぶっつーか
ボーっと
するっつーか……
……あれ?
やっぱ平和ボケ
してんのか…?
………

……最近　姿の調子が
良くなる一方で
まるでそれに反するかの如く
クビツリの様子がおかしい
この変化は……
いつからだったかの
姿が神に戻って——
…紅がクビツリの縄を
道連れに燃え尽きて
以来……か？
……だと
すればやはり
クビツリは
縄を失ったことで
何か——……
何ブツブツ
言ってんだ？
ぽ!!
……なんとも
ないなら
それで良い
悪いと
思っているなら
撫でろ

おっ…まえ
神に戻ってから憚らなくなったな。
すげーやりづらいんだけど……
黙って撫でろ
……。
……ま　考えても仕方あるまい
もはや妾もこやつの運命も
……なるようにしかならぬのだから
…なんだ？コレ
わしゃ
…。
せんぱい……
ピン
どうした？
――今…『声』が…した
えっ
……おい声ってまさか

呪い人……であろうな
かすかに届いたのだ
なんとも悲痛で――
か細い鳴き声のようだがの
…もういいかなぁ
まだだ
久々の怨結びだ
心してかかれよ！

第五十節❖交われ

なるほど
このご遺体は
——……

極めて
保存状態が
良い

まるで今にも
起き出しそうだ

……しかし何故
私が安置室に
呼ばれたん
でしょうか

オカルトは
あんたらの
専売特許だろう

こっちだって
不本意だよ

少年事件8課——
エンなんとかの

怨結び
捜査係です

一・週・間・

遺体が残るとなると──
これはもう殺人事件だ
厄介なことになんぞ
……分かりました
うちでも調べてみます──

第五十節❖交われ

大比木さん もう一週間も休みだよ？
例の事件に巻き込まれたって噂ホントだったんじゃ
女子生徒を乱暴した側が死んだってやつ？
死んだこと自体は事件性ないって聞いたけど
でもエノ高に警察出入りしてるらしいじゃん
え こ こわ…
それより大比木さんのが心配だってば
ざわ
ざわ
自宅療養なら大怪我とかじゃないんだろうけど
状況ヤバすぎ
仲良かった二人は何か聞いてない？
なんも
通話もダメだし既読も一切付かない
家電にもかけてみたけど留守でさ

……ねえ！
心配だし一度
お見舞い
行ってみない⁉
クラスから
代表者数名に
絞ってさ！
お花とメッセージ
届けるくらいなら
迷惑かからないと
思うし……
ひと目くらい
会えるかも
ん…それ
いいかも
うん
さんせー
……
言え
ない……
智がいま
あんなことに
なってるなんて
それも
わたしの
せいで……
ガラ
おはよう
ございます
みんな
席について——
あっ先生！

大比木さんの住所…教えてもらえませんか!?
私たち お見舞いにいきたいんです!

……ごめんなさい
お見舞いはちょっとまだ……難しいと思うの
でも皆の気持ちはきちんと親御さんに伝えておくから――

……なんで…
親御さんなの…?

もしかして大比木さん――
会話も出来ないくらい酷いんですか!?

ちっ違うのよ!? ただ……今は
そっとしておいて欲しいって親御さんの要望なの
だから……

……そんな
じゃ
やっぱり大比木さんは――……
………

……あれ以来
先輩は学校に来てない
連絡もとれない
切
これこそ先輩が一連の事件に関わってるっていう
揺るぎない証拠……
智が突然変身して私を遠ざけたのも
先輩が私に近づいたのも
そして智が——今回ああなってしまったことも
全て先輩の思惑通り……
ギリ…
……っ
ぎゅう…
だとしたら
……智のバカ…!!

このまま――……

こんな私一人
何も知らないまま……

逃げられるわけ
ないでしょ!?

……だから…

目を覚ましてよ

さとる……っ

……知りたい

廃墟で何が
あったのか

知って――……

……どうする?

私一人の力じゃ――……!!

『怨結び(えんむすび)のことが知りたい？』

『よく僕まで辿り着いたじゃん』
『いいよ教えてあげる』
『怨結びってのはね――』
……えん
むすび……
ああ
その怨結びだけどな

渡せねえこともないんだが……
とりあえず――
話聞いてみっか？

かっ……み
なが先輩⁉

……ここに写ってる後ろの二人——見たことあるかい？

えっ
……この二人
……確か
大比木さんの友達の……
ていうか
なんですか
この画像……っ
大比木さんを売ったのはこの2人だよ
私は先日の事件を見てたんだけど学校に固く口止めされててね
だけど一人で抱えるのはあまりに辛い……
……だからせめて
彼女の無念を……誰かに知って欲しかった

……嘘よ
友達だって
言ってたのに……
あの二人……
彼女を
裏切ったの……？
――…
やっぱり……
男なんて
っ……
……ごめんね
辛い話を聞かせて
……でもね
彼女がどんなに
惨たらしく
汚されようが
危害を加えた
ほとんどの奴らは
今ものうのうと暮らしてる

そんなの許せないだろう……？
ゴシ…
……そう
君は……優しいね

だったら――

!?

・・・やるしかないのです

やったことにはそれ相応の

えっあの神永先輩……？

なんか…声っ聞こえません!?

あのっ放して……

放してください!!

罰が下るということを……

知らしめてやるのです

せんっ……

……
うわ
いきなりなにっ……
……
……えっ
……君…確か智と一緒に居た……？
……え？

なっ…
いやぁぁ!!
何これッ
なんなのよー!?
はっ
何ってそっちが
引っ張り込んだんじゃないかッ
俺はただ通り
かかっただけ
なのに いきなり……
——…

“大比木(ともびき)さんを 売ったのは この2人だよ——”

なんで……捕まって ないの？ あなた……

あなたたち大比木さんを売ったくせに……

!?

ちが違う!!

『あれ』は脅されてっ……

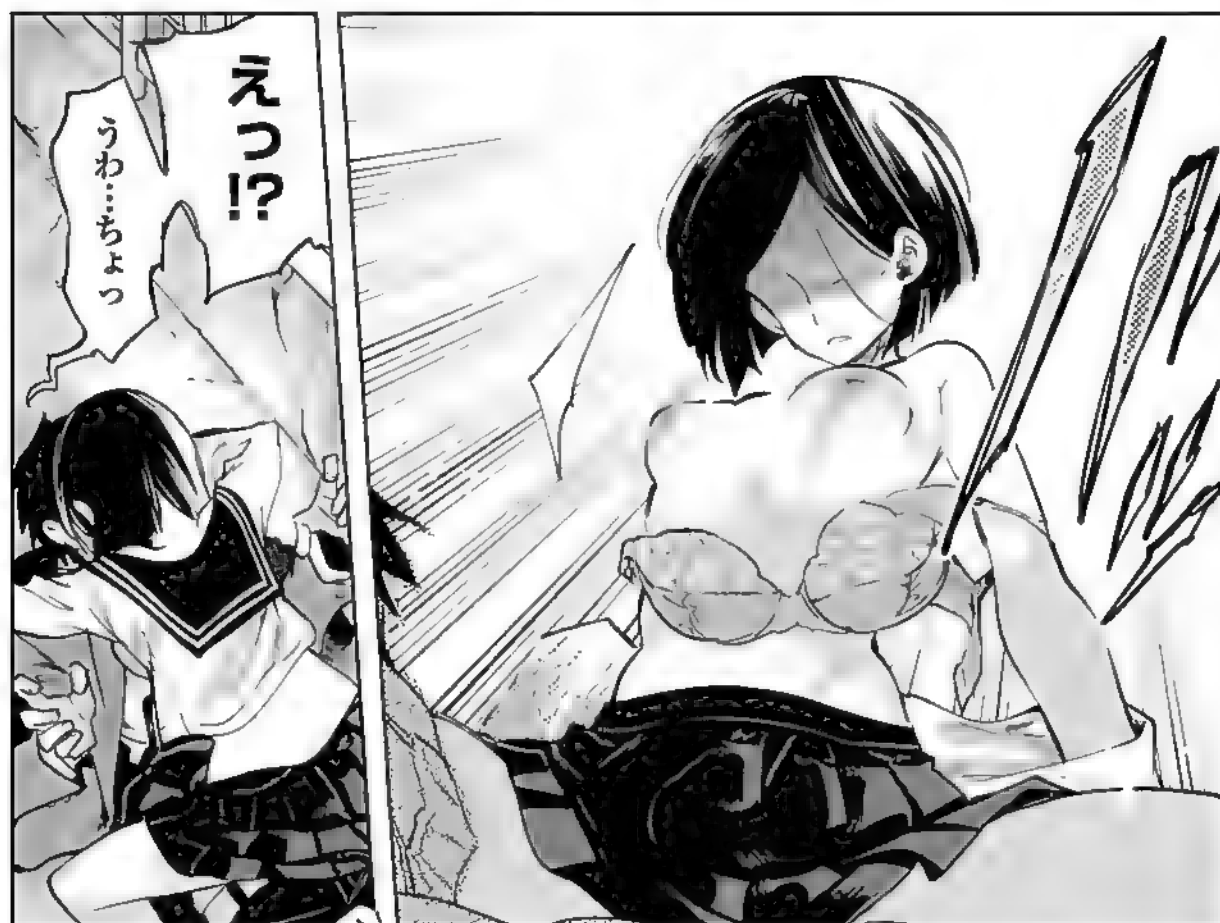
『あれ』って何……？

じゃあ……あんたたち

ほんとに大比木さんを……

あんないい子を……

『変われ』
えっ!?
うわ…ちょっ
何す…?
やめ…

……っ
ふぅうっ……
ううっ……!!

うっ……
美しい……！
あまりにもっ美しいっ!!
——智も……こねずみちゃんの友達もッ
なんて友達想いで……優しい子ばかりなんだ！
こんな美しい絆を見せ付けられたら!!
……
……

……ねえ
……壊すしか……
ないじゃないかぁ……っ♡

キャアアア

なっ……んだぁ!?

あっちは……通学路の方面――

……どうして

なんだか……いやな予感がする!!

あっ

おい!?

ああもう話はまだ……

くそッ

フラ…
フラ…

待て…って!!
ガバ

何があるかも
分からねえのに
迂闊に飛び込むんじゃ

ねっ…

なっ……
ボタ…
ボタ…

し……
しっかりして!!
なんでこんな……
いったい何があったの!?
ま……
じ……
……交わ……れ
罰を
下……せ…
まじ……われ?
罰……って
ズル…
ザッ
『怨結び』
――ってのはね

手首に『印』を
受けた呪い人（のろびと）が
セックスで
相手を消す
呪い
なんだよ——…

どうして私じゃなく
私の友達に――
怨結びなんて
渡したの!!!
――…
怨…結び
だって…?
これが
……!?

すみませーんっ お待たせしました〜
遅い
もうトイレは大丈夫なの？
いっ言わないでくださいよ〜…
しっかし まさか一度調べた女子校で事件が起きるとは……
いやまー 怨結びの線は薄いっすけど
消えずに死んでるし
……
この学校なら僕一度入ってるんで事務員にはさっき電話で話通しておきましたよ
……先輩？
あ ごめんなさい
——えっと… 佐々くんは先に聞き込み始めてくれる？

その……私
この学校に話を聞きたい子が居るの
……できれば内密に
えッ
まさかその服……
はあ……内密すか？
警察が名指しで聞き込みに来ただなんて広まったら彼女に迷惑がかかるでしょ？
いやっイイと思いますけどね!?
ただできればひと目見てみたいななんて……

――彼があんなことをする理由があるとしたら
あの子なら……何か知っているかもしれない
……………
クビツリさん…

制服バリエーション

第五十一節 ❖ 懺悔の放課後

ピク
――……

――くそっ！
脈が無え……!!

おい！そこの……スマホ弄ってる男！それで救急車呼べ！二人分！
え はあ……
早く!!

……？

助けようと……してる？
なんで……

この人が撒いた
呪いじゃないの――……？
……二人目なの
私の友達が事件に巻き込まれるの……
前の事件からまだ一週間しか経ってない……
智……一人目も――さっきの子と同じ
今は会話もできなくて……
何があったかは分からない……けど
噂では男の人に襲われて……何故か相手が死んだって……言われてて
だから私……てっきり

……少なくとも
俺は
そのどちらとも
会ってねえよ
だいいち怨結びは
人を『殺す』
呪いじゃねえ
跡形もなく
『消しちまう』
んだ
当然死体が
残るなんて
ことはねえ
だからそいつが
『怨結びでない』のは
確かなんだよ
私の聞いた
話もそう……
だけど じゃあ
手首から縄の模様が
消えたのはなんで……？
あれが怨結び
なんじゃないの……？
それとも
あなたたちも
知らない何かなの……？

そんなはずはねえんだが…
…そうだな念のため
怪しい奴に声かけられてもついてくんじゃねえぞ！絶対
ぷっ
それ…真っ先にあなたが該当するんだけど
あ
……安心して私は誰にも――
勿論あなたにだってついてかない
今だって騙されてない保証はないもん
う……いやまあそう…だな
そんだけ警戒してりゃ大丈夫か……
けどな

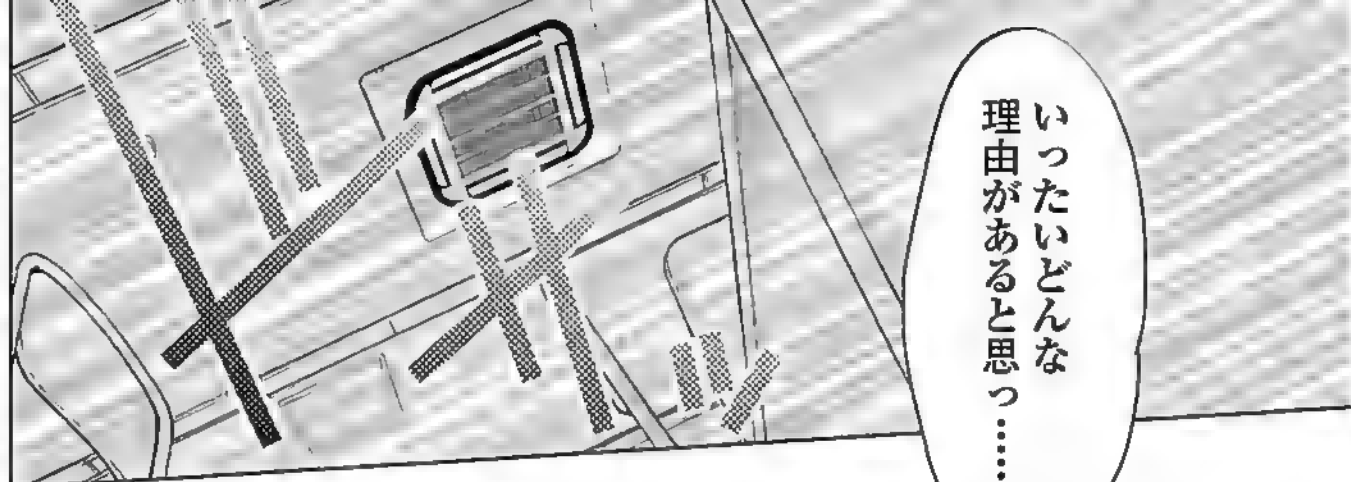
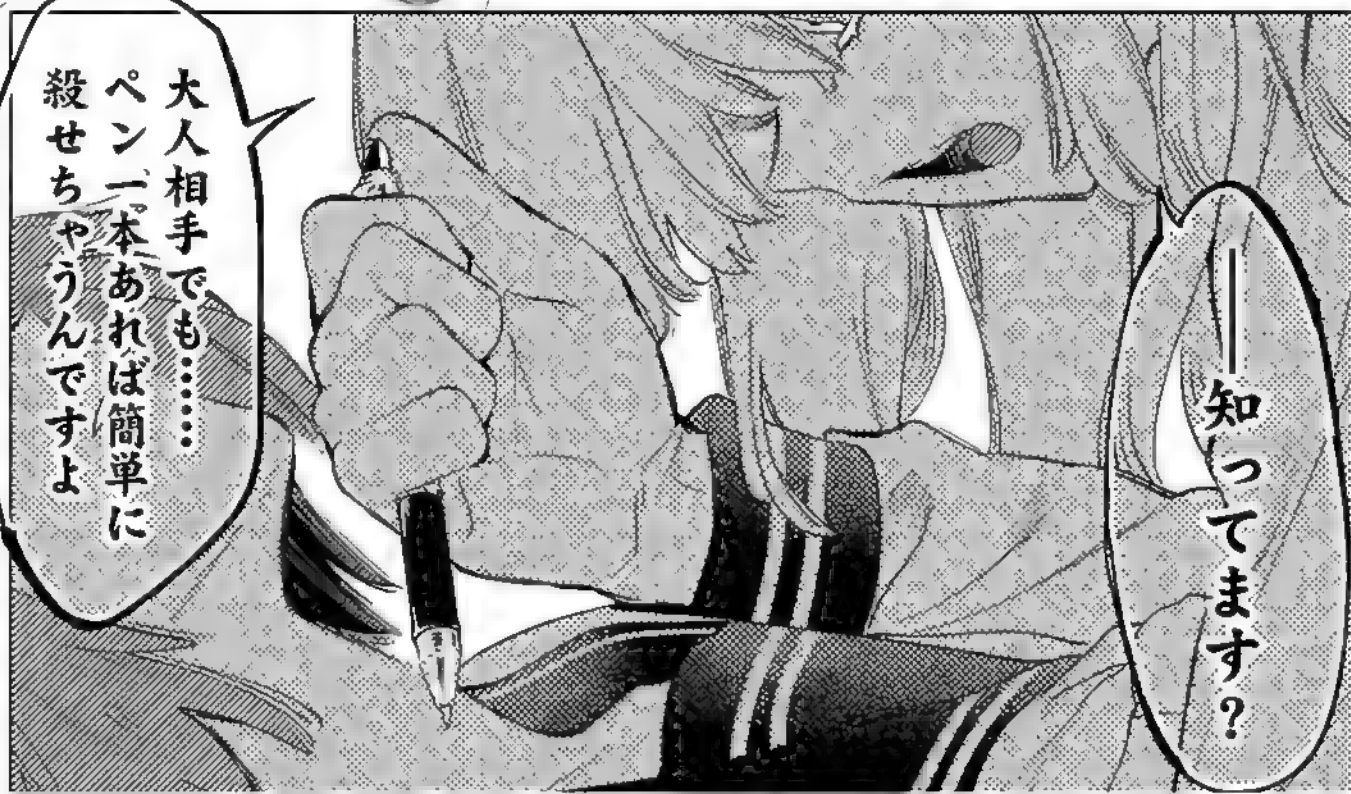
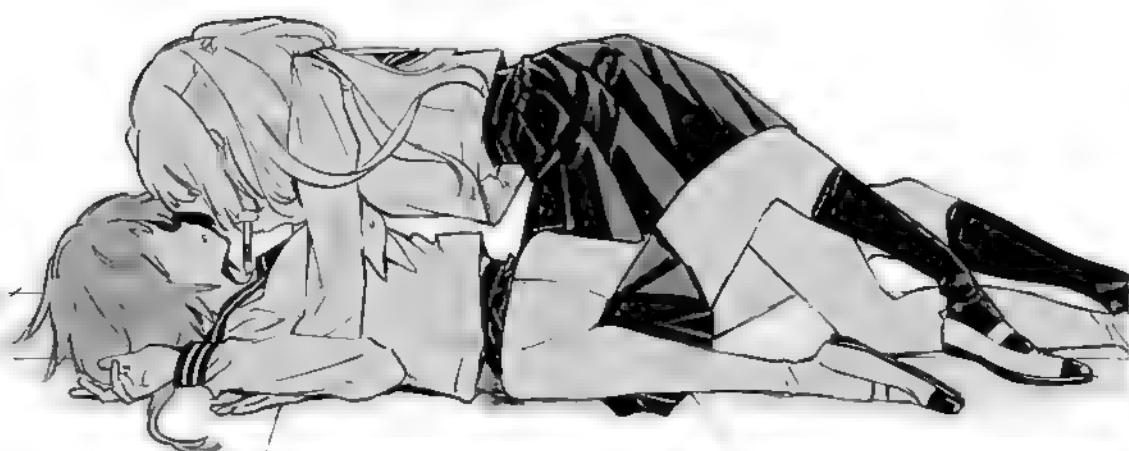
俺はお前が望まない限り
現れねえし
連れて行ったりしねえ
もし必要になった時は――
強く・・・念じれば・・・
うちの神さんがあんたの
『望み』を聞き届けて
くれるだろうよ
……
わたしの
望み……
どうも
君が
第一発見者
なんだって？

〝——怨結(えんむす)びの使いは 誰かを消したいと願った人の元にやってくる…——〟

馬鹿を言うな！
怨結びでただ人が死ぬなどありはせん!!
ましてや妾に覚えのない怨結びなどと…
単なる言いがかりではないかーっ
俺もそれが怨結びだなんて思っちゃいねえよ
おちつけ
『印』にしたってあいつの見間違いって線もある
すとん
ただどうもな……やな感じがすんだよ
蛇に声の届いた根津見 鳴の周りで
立て続けに2つも事件が起こってる——
……おまけに

俺の見間違いでなけりゃ
あの制服は確か――……
……まあ
勝手に疑われた件は大目に見るとして
どのみち呪い人に成り得る娘だ
しばらくは様子を見てやれ
心配なのだろ？
あ…ああ！
じゃ悪いけど…またしばらく空けるからな！
……
……まったく
心配の種が呪い人だけでないのはバレバレだというに

――とはいえ
『あの娘』に限っては……
妾ならまず相手の身を案じるがの……
――ごめんね
突然だったにも関わらず お時間頂いてしまって
……それはいいんだけど
…正直驚いてます
……まさかあなたが
そんな格好で学校に潜入してくるだなんて
思ってもみなかったので

だって……
スーツ姿の
大人相手じゃ
乙梨さんも
身構えちゃう
でしょ？
でもね怨結びの本質は
結局のところ心の内側……
相手が心を開いて
くれないと真実は
見えてこないから
付け毛
時々こんな姿で
捜査してるの
つまり今 私と
腹を割って話したい
ことがある と
そういうこと
でしょうか
パサッ
さすがに
鋭いのね
実はクビツリさんの
ことなんだけど
彼が女性の寝込みを
襲うようなことが
あったとして

――知ってます？

大人相手でも……
ペン一本あれば簡単に
殺せちゃうんですよ

いくら冗談でも言って良いことと悪いことがありますよね？
今の発言……撤回すれば私も制服を汚さずに済みます
…冗談じゃないの
真面目に教えて
私……
私は呪いの後遺症みたいなもので
私は恋愛感情を代償に
求められれば無条件に応えてしまう……
人を消(ころ)した罪人
……相・手・が・誰であっても
あなた
……恋愛感情が無いんでしたっけ？
男にしたらさぞ都合のいい女なんでしょうね
私から見ればあなたみたいな女最低ですけど
……だっ
だけど！

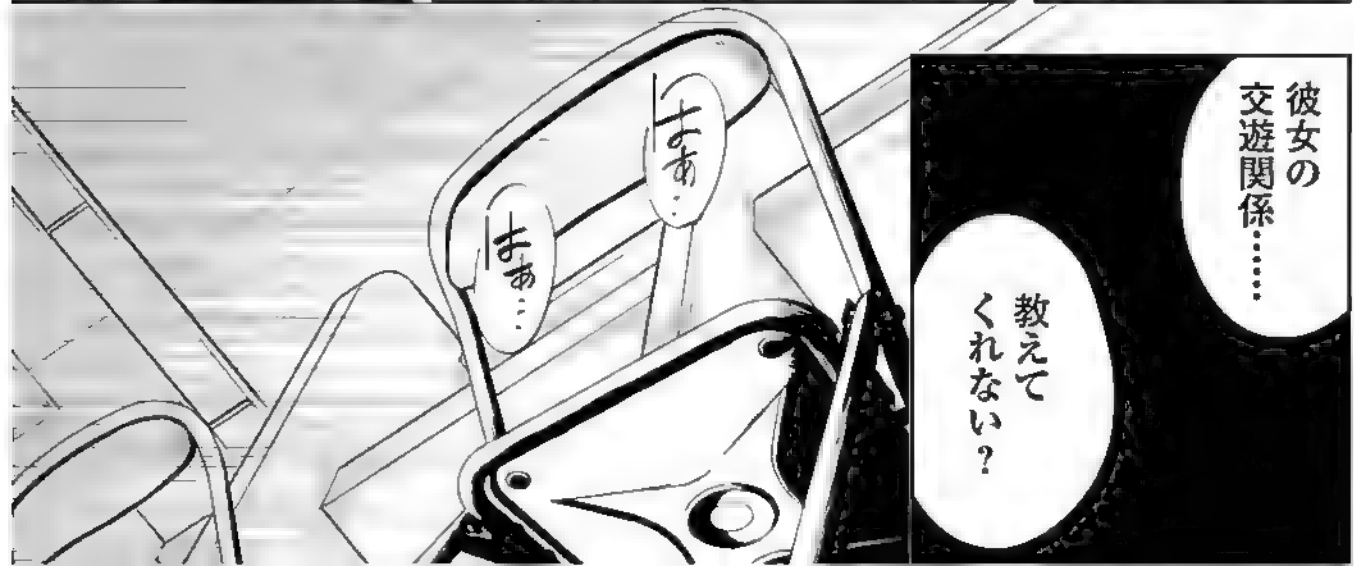
こんな私でも
あなたに好意を抱く彼があんなことするなんて
どうしても思えないの……
何か理由があるはずだって……
なぁんだ……分かってるじゃないですか
そうなんです
私はいつでも大歓迎なのに手を出してくれないの♡
そんな奥手なクビッツリさんが――
あなたとセックスするわけないでしょ!!?
ふわぁ。。

先輩……大丈夫かなあー
学校にバレたら大変だぞ……
あれおじさん誰ー？
センセじゃないよね
僕おじさんて年じゃないよー？

丁度良かった
二年の大比木さんて子知ってる？もしくはそれと親しい子とか

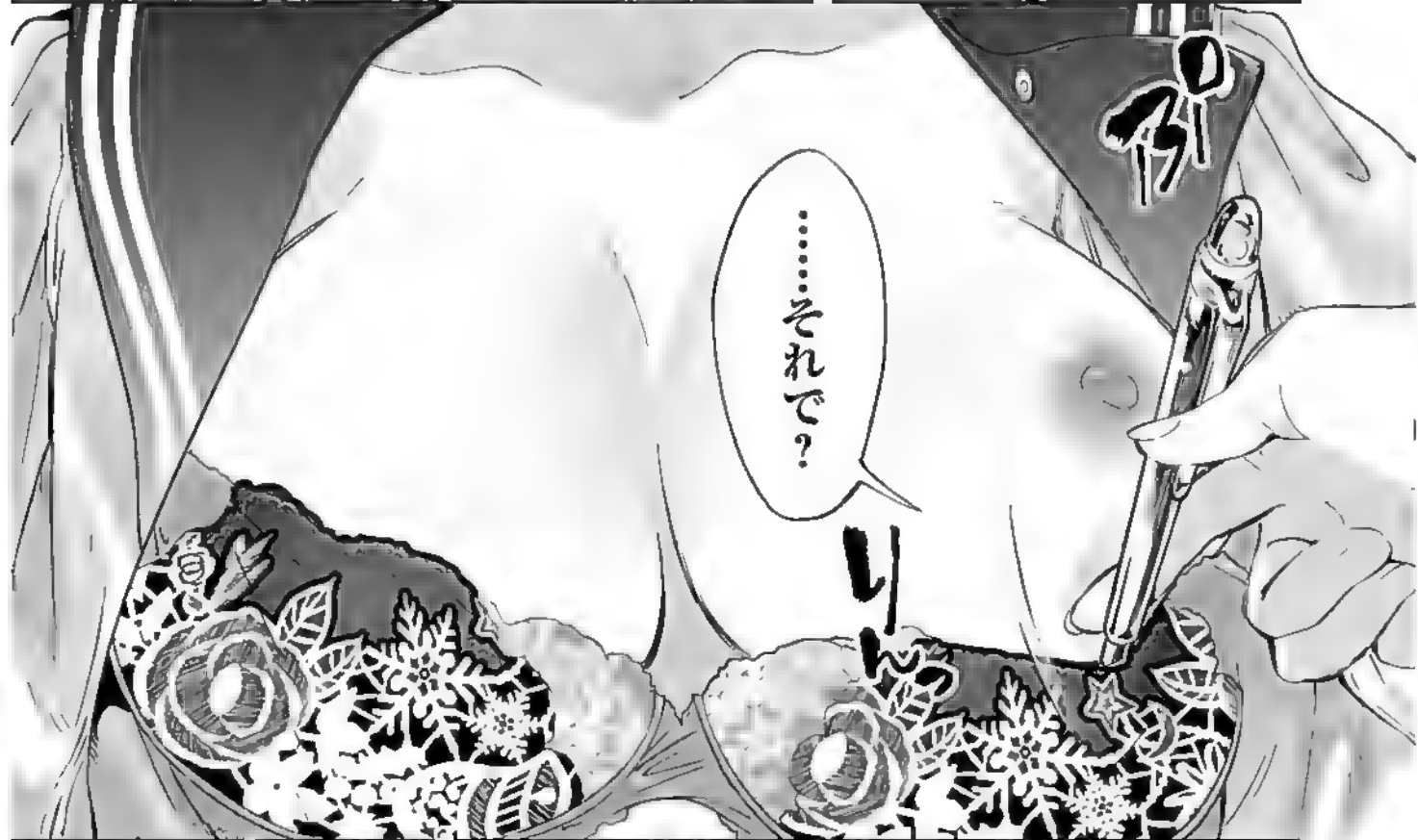
えっ
智……のことでなにか……？

お ビンゴ？
実は僕 こういう者なんですけどー

彼女の交遊関係……
教えてくれない？
はぁ…
はぁ…

……ああ……
そうだ……
折角だから
具体的に…
何をされたか
一挙一動…
教えてくださいよ
!?

ッ……
……っ
ぶ…ブラを
下にずら
されて
…おっぱいを
揉まれたの…
なに？
ぷりっ
……それで？
りん
ゆ
ゆびで
二本の指で
乳首の周りを…
摘まんだり…
拡げたり
して
いっ
いじ
られ…て……
いッ
!?

いたっ！
イタ…ッい
…もう…
やめ…っ
で？
乙梨 さ……
……つうぅ…っ
〜〜〜ッ…
口に含ん で……
…くっ
先端を……
舐め…られ

ッううう!!
ちゅうっ
…あっやあっあっ
——それで…?
ちゅぱっ
はぁっ はっ
下……を触れられたところで私…っ
…寝ぼけてて……
わた…
私っ……!!

っい……
『稲葉』って…
呼んじゃっ…た……
……昔 私が呪いで
消した男の子……
彼はきっと今も
私を恨んでる……
だって
私はそれだけの
ことをしたんだもの……っ
あれ以来ずっと
私…私は誰に
抱かれても……
稲葉に復讐
されてるような
気がして──
──だから
拒めない……

拒んじゃ
いけないの……
ごめん
……ずっと
贖罪のつもりで
身体を捧げ
続けてきた……
ごめん…
なさい……
いなばぁ……っ
はあ…

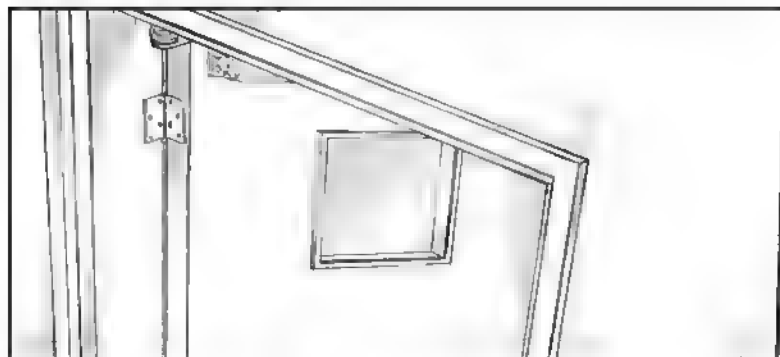
あなたが襲われた時――寝ぼけて名前を呼び間違えるくらいですから

はっきりと顔を見たわけではないんでしょう

判断基準は髪型や背格好……良くて横顔程度

なら あなたの見たクビツリさんは――

断言します――。
100%偽者でしょう
――そう……そっか……
……あなたからそれが聞けてなんだか安心した……
問題は
それが偶然
他人のそら似
……ではなかった場合なんですが
それはつまり
『意図的にそう見せたい何者かがいる』
もしくは

彼に何かしらの濡れ衣を着せようとしている――

そんな輩（やから）がいるとしたら…これは許されないことですよ

病院に
運ばれた二人……
女の子の方…は
……無事……
なんですか？
ああ
さっき連絡あったが
命に別状はないってよ
ただ……なぁ
問いかけに
一切反応を
示さねえとか……
まあ…コトが
コトだからな
精神的なモンも
あるんだろう……
男の方は残念だが
死亡が確認
されたそうだ
あっちも
嬢ちゃんの
知り合いか？

……智と同じ……だ

なにもかも

〝神永先輩を疑って……〟

まさ…か

だってあの子は先輩となんの関わりも……！

……だけどもし

もし今回も

先輩が関わっていたとしたら

狙いはもう
私ひとりだけじゃない…？
ギィ
おう来たか
遅かったじゃねえか
がっ……
…え？
こう外回りが多いと喉が渇いてしょうがねえ
ここでビールの一杯でもありゃ最高なん……
だ

ひッ…

んぅ!?
根津見 鳴…だな

ん…
お前は『エサ』だ
んー…っ
付き合って貰うぞ

Q なぜシャープペンを？

A. 武器なんて持てれば
なんでも良いですよ。

神さまの怨結び

かみさまのえんむすび

第五十二節❖窮鼠の涙
少年事件8課
ガタ
ガタン
なっ…何事!?
これは……いったい——
ポンッ
少年8課の櫻警部補だな
!?
本日午後6時42分第5取調室で二瓶警部補が刺された
カメラに映った外見と室内に突如現れ消えるといった特徴から
容疑者は怨結び重要参考人の『九来木辰巳』と断定
現在男は少女を人質に連れており一刻を争う事態だ
以降は我々捜査1課が引き継ぐ
そんな——彼が……有り得ません!!
それと

殺人2件に殺人未遂
それも後者は庁舎内で堂々と
これはメンツにも関わる問題だ
怨結びで……死者!? 待ってください! 私たちそんな話一度も――
佐々くん……佐々くんは!?
彼は先に本庁へ戻ってたは…ず……

どうして……佐々くんが――……!?

……おかしい

あれから根津見メイがどこにも見当たらねえ
学校休んでんのか？
蛇！そっちはどうだ
……アメだの
呪いを求める声がなければ 垂にも探りようがない……
まさかまだ警察に――
未成年……ましてや容疑者でもないのに
……なわけねえよな…
……やっぱり
何か……あったんじゃ――
クビツリさん!!

叶(きょう)……‼
根津見メイの制服を見て まさかとは思ったが…
やっぱりお前の学校だったか
無事で良かっ
クビッリさんこそ大丈夫⁉
偽者に何かされませんでしたか⁉
……
偽者？

俺が櫻を襲ったあああ!?
んなわけあるか!! しねえよそんなこと!!!
私は信じてましたよ？
櫻さんの勘違いに決まってるって♡
……けれど——
あなたと何度も顔を合わせているはずの彼女が
『見間違えるほど似てた』のも事実です
昨日聞いた限りでは正体不明ですが
私は警戒すべきだと思います
櫻を襲ったという俺の…『偽者』
そして立て続けに起きている『怨結びのような』事件——
…………

……いったい何が起こってる……!?

もはや何かが裏で動いてるのは間違いねえ……

問題は事件の中心の根津見メイが目下行方知れずで

このままだと事件の真相にも辿り着けなくなる可能性がある――

ってことだ……

キス
……してくれなきゃ
放しません…
!?
…な
なんっ…
私だって時々不安になるんです
これ以上……ワガママ言ったりしませんから……
ツ!

……ホントは別のが
欲しかったけど
へ〇っ・・
急いでるみたい
だったから……
今回『は』
こっちで
我慢して
あげます……♡
お…まえ
ほんっと…
食えねえ奴
だな……っ
吸血鬼かよ
……
──君…

君は強い瞳をしているね……
とてもまっすぐで
なんだか
昔を思い出すよ――…
う……
ん
声……が聞こえる
ちがう……音声？
あ…
…
す
あ…す
いったい何…の……
…
…

ひっ…
な
なにこれ…!!
……駄目じゃないか目を背けたりしちゃあ
友達のために闘った彼女の勇気ある姿を――
!!

智はもう
観られない
んだから
代わりに君が
見届けて
あげないと
かみ…
なが
せん
ぱ…

どうして先輩がこんな動画……
やっぱり
先輩がそう仕向けたからなの!?
仕向けたただなんて人聞きの悪い
私はただ彼女の『衝動』を引き出したに過ぎないよ
私の友達がこんな目に遭ったのは――
みんな――随分と智の件で心を痛めてたろ?
でもまあ…やっぱり動画を見せた時が一番効果てきめんだったかな
すぐに彼女たちの憎しみは
あの場にいた男子全員に向かったよ
彼女…『たち』?
――ああそうだ!

これはついさっきの撮れたてホヤホヤなんだけど……
君には見せてあげる！
特別だよ？

……この子
智とよく一緒に居た――……

そして友情は被害者への同調と加害者に対する憎悪を
盲目的に加速させる――
その果てに破滅があるとも知らずに……
ひどい……
なんでよっ……
…私一人を壊せば良いじゃない!!
どうして智や関係ない子にまでこんなことさせるの!?
それじゃぁ意味が
ないからだよ
ス。

君は特別な女の子……

君だけは壊れることなく私の元まで辿り着けると思ったから

もしかして――私をさらったあの男に協力するため？

私を使って二人で何を企んでるの!!

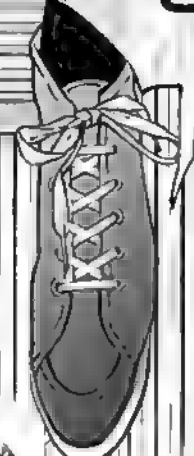
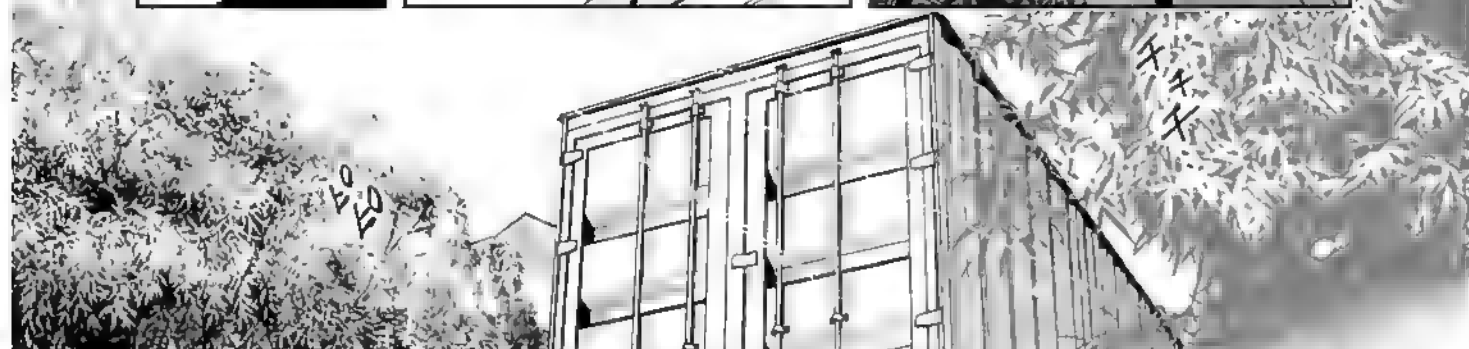
こねずみちゃん……推理は苦手かな？

呪いに協力したのは趣味を兼ねた利害の一致だよ

私の目的は別にある

でもそのためには――

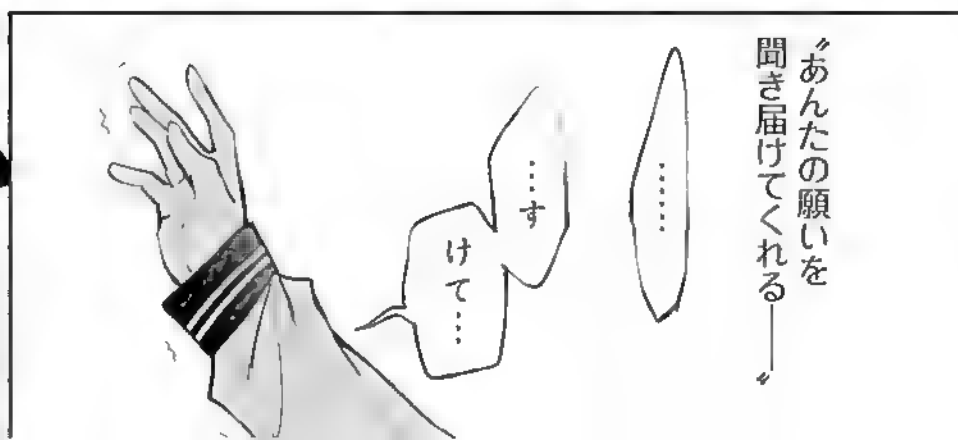
!!
君にはもうしばらく
『お勉強』して貰わないと……
ギャ
え
私のこの満たされない欲求は――…
……
…
…メイをあんな目に遭わせたら……
あんたのこと…殺し…やる
これ…先輩と…智……？
智が…先輩に頼んでみるって言ってた時…の
じゃあこの続きって
まさ…か

おっ今回の子もアタリじゃね？
い……
や……
ほんといい趣味してるわアイツ
やめ
やめてっ……
お前ちゃんと撮っとけよー
智にひどいことしないで…っ
ねえ…!!
やあああ

ふふふ…
ねえ……まるでそっくりだよね…？
二年前の私と…今のこねずみちゃん
さあ……君はどう化ける？
私と同じになっちゃうのかな
それとも——…
チキチ…
カ!!
キャーン

……何
やってんだ
お前
……何故
望まない
あのイカレ女を
止めたければ――
さっさと
願え
憎め
……う…
うぅぅ…
もう…いや…
先輩の昔話も…
智が……
みんなが
いやなの…
もう…たくさん
………
……もう…
……こいつは
……もうダメだな

ＳＤは追加の届け物だ
お前が腰抜けなばっかりに――
休校だってよ
……え……？
無理もねえな
たった2日でお前のクラスの三分の一がブッ壊れちまったんだから
あのイカレ女の口車も大したもんだよ
おかげで『呪いを大量に消費する』っつう別の目的は果たせたし…
……そういうわけだから

ギィ……ギィ……

お前もう
いいよ

あとは
勝手にしな

たすけて・・・っ
わたしにちからを

お前……
捜したぞ!!
今まで
何してたんだ
馬鹿野郎――!!

――呪いは
授けたが――……
……随分と
手ひどくやられた
ものだの
……こいつに
何があった
ってんだ…？
さてな
ただ――
こやつの
悲痛な叫びは…
尋常で
なかった
どんな手段で
ここまで追い詰め
られたのか知れぬが

あちらに戻る際は
くれぐれも気をつけよ・・・
これ・・・
は・・・・・・
・・・さっきは暗くて見回す余裕もなかったし・・・
なんでこんな場所にとしか思わなかったけどよ・・・・・・
水
お前・・・・・・ずっとここに
監禁・・・されてたのか・・・・・・？
・・・・・・・・

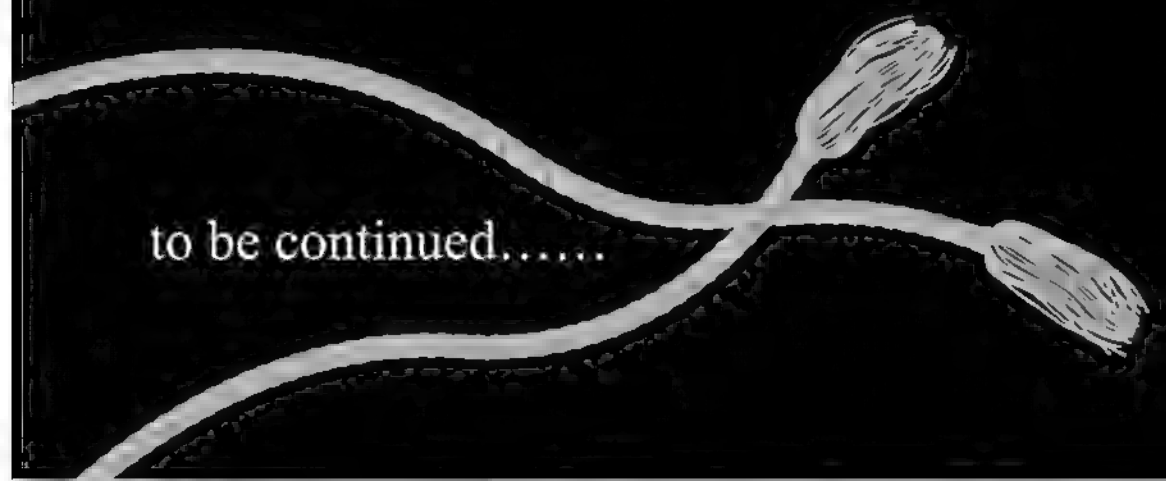
刑事と会ってから
いったい何が
あったのか
よかったら
俺に話して
くれねえか
…ごめ
ごめ…なさ……
『これはぜったい
何かの罠』だ…って
分かってたのに
最後まで…
耐えきれ
なかった…
…助けを
求めずにいられ
なかったの…っ
え

おまえ
櫻ん…とこ
のっ…

やっぱり骨女(ほねおんな)の言う通り――
お前こそが怨結(えんむす)びの要…
呪われた道具
人間の皮を被ってやがったんだな
蛇(くちなわ)だ

縄……が……
──……!!
……
クビ…ツリ?
返事をせよ……
何故…声が届かぬ
クビツリ……

応えよ!!
クビツリー!!!
『神さまの怨結び』第⑨巻／完

to be continued……

ENMUSUBI [9]

-Special thanks-

KaeruShinshi
Naharu
Pi-po
tarow
Runa

M_Hamano

K A M I S A M A N O

半身を失った神の絶望――。
事態を知った少女の絶叫――。

勝負ね
破滅を望む者と
止める者――。
そして男は境界で
彼女と再会する――。
“――あれ”
神さまの縁結び 10
かみさまのえんむすび
乞うご期待!!

神さまの怨結び

かみさまのえんむすび

電子特装版

神さまの怨結び 9

かみさまのえんむすび

限定特別画集

守月史貴

Presented by KAMIZUKI SIKI
KAMISAMA NO ENMUSUBI

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

O ENMUSUBI
AMIZUKI SIKI

これで妾を含め『すためん』はおおむね
櫻の乳を吸った
ことになるわけだが…
櫻のおっぱい吸った人リスト
消失 稲荚
蛇
佐々
クビツリ?
叶(New!)
なに勝手にクビツリさん混ぜてるんですか
殺しますよ
?

なっなんだよ
コっち見るなよっ
僕はぜったい
吸わないからな!!

O ENMUSUBI
C
AMIZUKI SIKI

O ENMUSUBI
AMIZUKI SIKI

KAMISAMA N
Presented by K

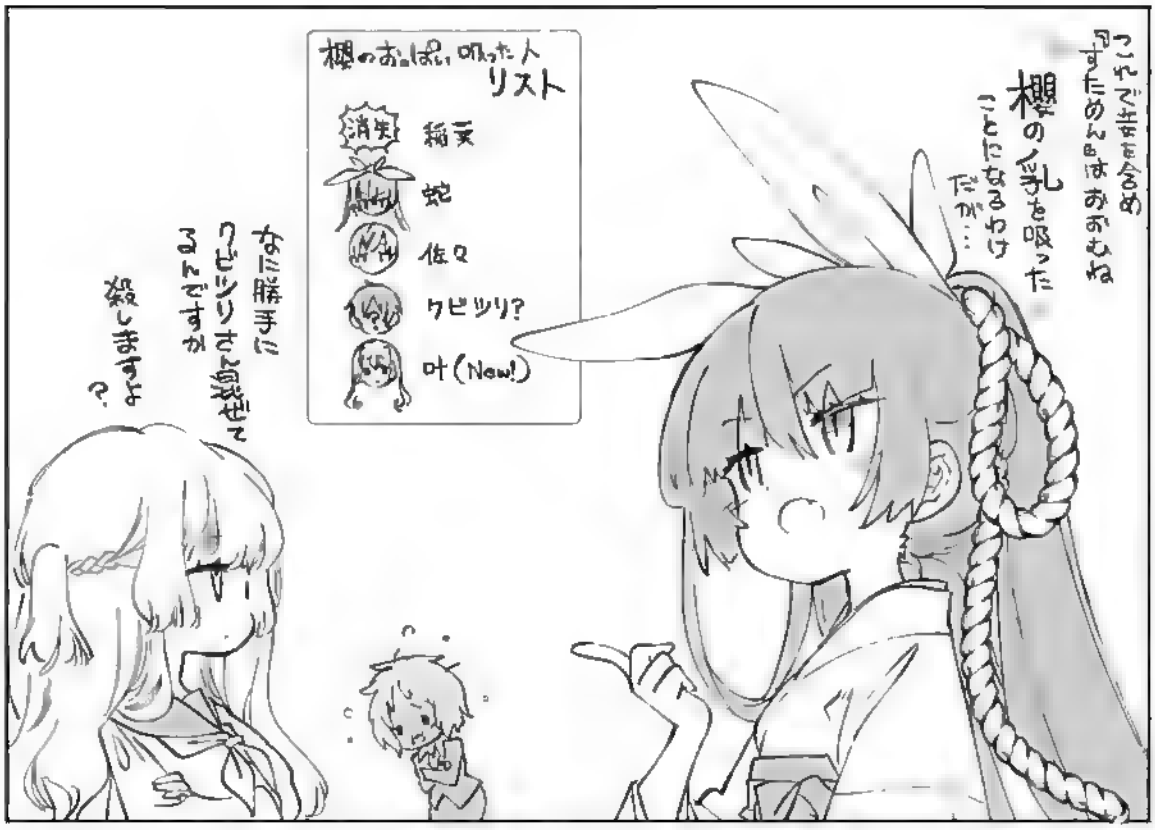
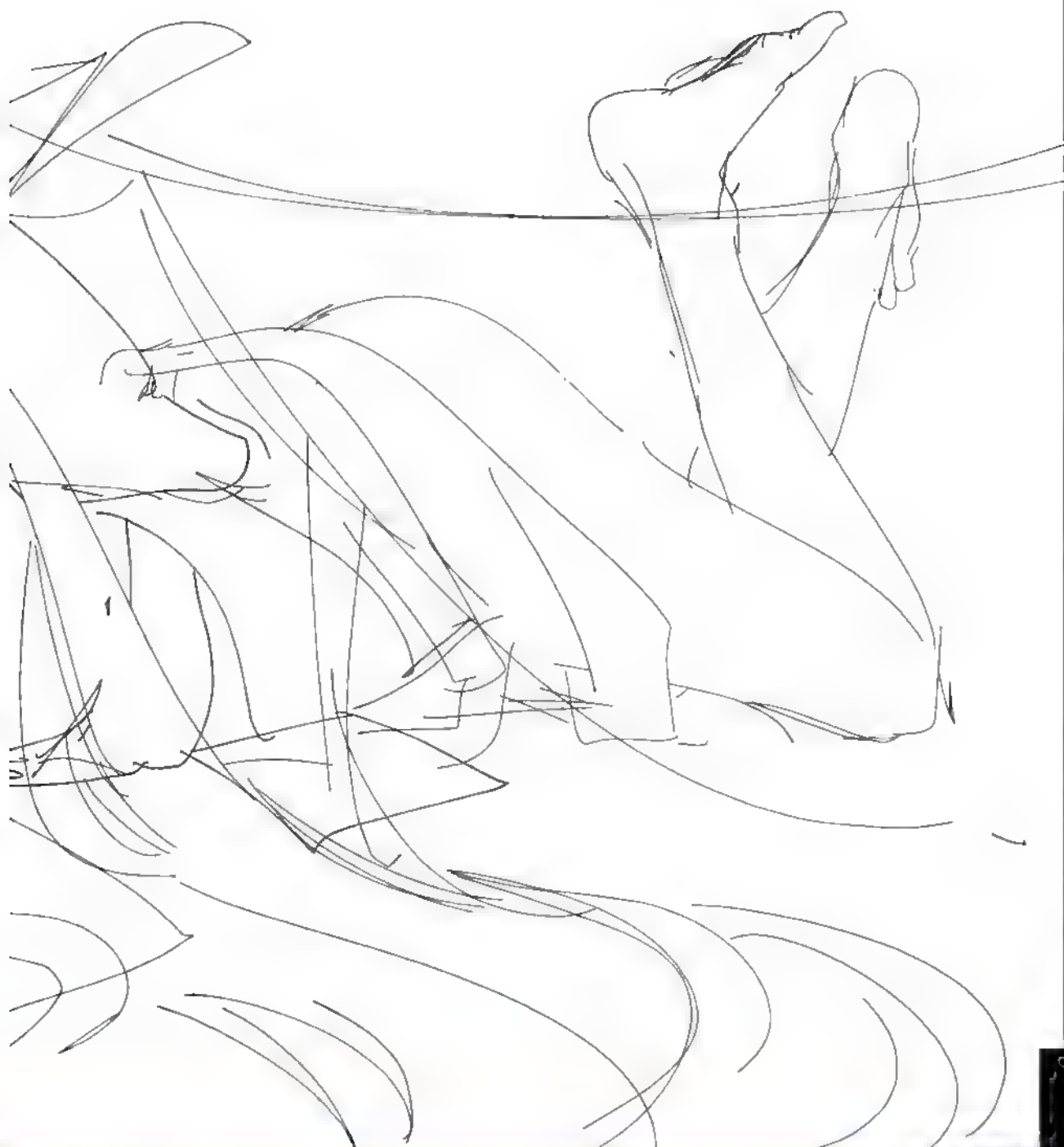
KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

Presented by KAMIZUKI SIKI
KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI
KAMISAMA NO ENMUSUBI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

チャンピオンRED
コミックス

神さまの怨結び 9

2020年5月1日　初版発行

著　者　守月史貴

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店

〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23591-4

デジタル版　2020年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com